

■特別支援学級・通常学級における実践事例

マルチメディアDAISY図書を活用して読みに困難のある子どもも楽しめる読書活動にしていく取り組み

安来市立南小学校
秋田 治美

活用の目的

マルチメディアDAISY図書を活用することで、読みに困難を感じている子どもたちに、本を読むことの楽しさを味わわせたり、書いてあることの要点や感想を簡単な文章でまとめたりすることができるようにしていきたいと思います。

活用のための準備

<ルールの設定>

- ・使いたい子どもが混み合わないよう
に、事前に使いたいという希望を図
書館司書に伝え、許可を得て使うよ
うにしました。

<全校への周知の実施>

- ・全校の子どもが集まる時間に、言葉
だけでなく実際にスクリーンを使っ
て説明し、関心をもたせるようにし
ました。

<実態調査の実施>

- ・読書や図書館利用についてのアン
ケートを作成し、使用する前の読書

に対する意識と、年度末に実施した
時の意識の変化をまとめていきたく
と思います。



マルチメディアDAISY図書専用の棚

活動の実態

<対象>

- ・通常学級や特別支援学級に在籍し、
読みに困難を感じているためにな
かなか読書に向かえない子ども。

<校内での活用場所>

- ・学校図書館、メディアコーナー

<校内での環境整備>

- ・メディアコーナーのパソコン4台を、
マルチメディアDAISY図書が使用で
きるように設定しました。

- ・聞くことに集中できるように、それぞれのパソコンにヘッドホンを取り付けました。
- ・マルチメディアDAISY図書の書籍版をメディアコーナーの手に取りやすい場所に置きました。



パソコンで見る子どもの様子

<校内での活用時間>

- ・学校司書のいる業間や昼休みの時間
- ・学校司書のいる朝読書の時間



感想を書く様子

<活用の実態>

1学期に全校へ周知した後、学校図書館での使用を希望する子どもを

募り、予約制にして学校司書のいる休み時間に使用するようになりました。また、マルチメディアDAISY図書で読んだ場合も、本を借りた冊数として記録するようにしました。

2学期からは、休み時間の使用のほかに、通常の学級（2年生）での朝読書の時間に3～4名ずつ使用する取り組みを、担任と学校司書、図書担当が役割を明示し、連絡を取り合いながら行いました。

9月は、全員が『11ぴきのねこ』のシリーズをマルチメディアDAISY図書で読んだ後、書籍を借りて帰って家庭で感想を書き、翌日には学校司書まで持って行くようにしました。しかし、子どもによって読む時間がまちまちであるために、朝読書の時間内に読み終わらなかったり、家庭で感想が書けなくて困る子どもがいたりしました。

そこで、10月からは着替えた子どもからすぐにメディアコーナーに行き始めるようにしました。また、感想用紙を子どもの書きやすい様式に変更し、その時間内に書いてしまうようにしました。（書けなかった子どもは家庭で書いてくる）

また、感想が書きにくい子どもには、学校司書や図書担当教員が思っていることや考えたことを聞き出して、言葉にして言わせてから書くな

どの支援をしました。

取り組み始めたころは、感想やあらすじがなかなか書けなかった子どもが、書く内容や曖昧な言葉や文字について支援してもらうことで安心して書けるようになってきました。

自分の考えていることや思っていることを言葉にして聞いてもらい、書くことの見通しがもてるようになったことで、朝読書の時間内に、意欲的に感想まで書くことができるようになってきました。



朝読書の様子

11月には、感想用紙を10月と同じ様式にしたことで、どの子どももマルチメディアDAISY図書の使い方や書き方に慣れ、見通しをもって取り組めるようになってきました。

9月から11月の感想カードは、月ごとに全員のを掲示し、お互いが見合うことで交流をするようにしました。

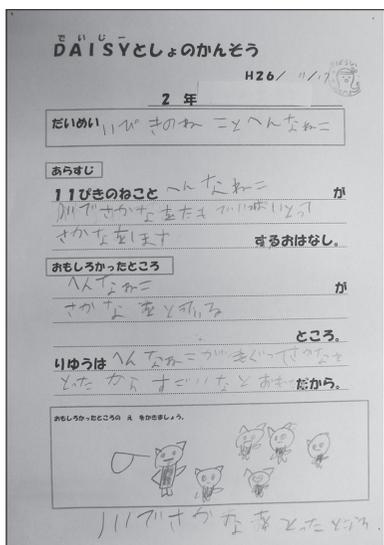
<Hさん（2年生）に見られた姿>

Hさんは、週に1回通級指導を受けている子どもです。文を読むとき、読み飛ばしがあったり、文末の言葉が曖昧になったりすることが多かったです。

しかし、マルチメディアDAISY図書の画面を見ながら、文字を目で追い、音声の助けで興味のある本を読んでいくうちに、次第に文をかたまりとして読むことに慣れてきました。感想を聞くと、「お話を読んでくれてうれしい」「お話がおもしろい」など話してくれました。これまで、促音につまづきがよく見られていましたが、促音を含む言葉の文字に意識を向けるようになってきたことで、つまづきが少なくなってきたように思います。

感想を書く場合も、最初は書くことが決まらなかつたり適当に思いついたことを書いていたりしましたが、感想や要点について考えたことや思ったことを聞いてもらいながら書くことで粗筋をつかみ、書く内容や文字の使い方についてもわかるようになってきたようです。

何より、朝読書に意欲的に向かうようになってきました。マルチメディアDAISY図書を使用することで、本の中身のおもしろさを感じてきているように思います。



Hさんの感想用紙

< Tさん（2年生）に見られた姿 >

Tさんは、情緒障がい学級に在籍している子どもです。絵本を読むことにはまったく関心がなかったのですが、目と耳からの情報があることで抵抗なくマルチメディアDAISY図書で読書を始めることができました。

また、2年生がマルチメディアDAISY図書で『11ぴきのねこ』シリーズの本を読んでいる話を聞いて、自分も読もうとする姿が見られました。身近な友達の取り組んでいる様子を見ることで、自分もやってみたいという気持ちが起こったのだと思いました。

まとめ

朝読書の時間に数人ずつで活動をしたことで、それぞれの子どもの実態に合わせた支援ができたのではないかと考えています。

読書の際、文字を追って読むことで

つまづいている子どもがマルチメディアDAISY図書を使用することで、内容を理解して読書を楽しむことができたと思います。読むことや書くことに困難があって支援が必要な子どもだけでなく学級の全員で活動することは、お互いに刺激をし合い、学び合う姿勢づくりにつながるように感じられます。

読みに困難を感じている子どもが、自分だけ特別にマルチメディアDAISY図書に取り組むのではなく、学級のみinnで取り組むことで「みんなと一緒に楽しい」という気持ちをもつように思います。この気持ちが、学ぶことの原点になると思いました。

今後の活用と課題

少人数のグループにして取り組むことで、一人ひとりの実態に応じた支援をすることができることを考えると、次年度も低学年については、朝読書の時間を使った取り組みをすることも有効ではないかと考えています。低学年の時期にマルチメディアDAISY図書を使いながら絵本に親しませ、幼年童話や読み物につないでいけるといいなと思っています。今後も、シリーズものや短時間で読みきってしまう読み物などをマルチメディアDAISY化していただけると、自分から読もうという意欲につながるのではないかと思います。